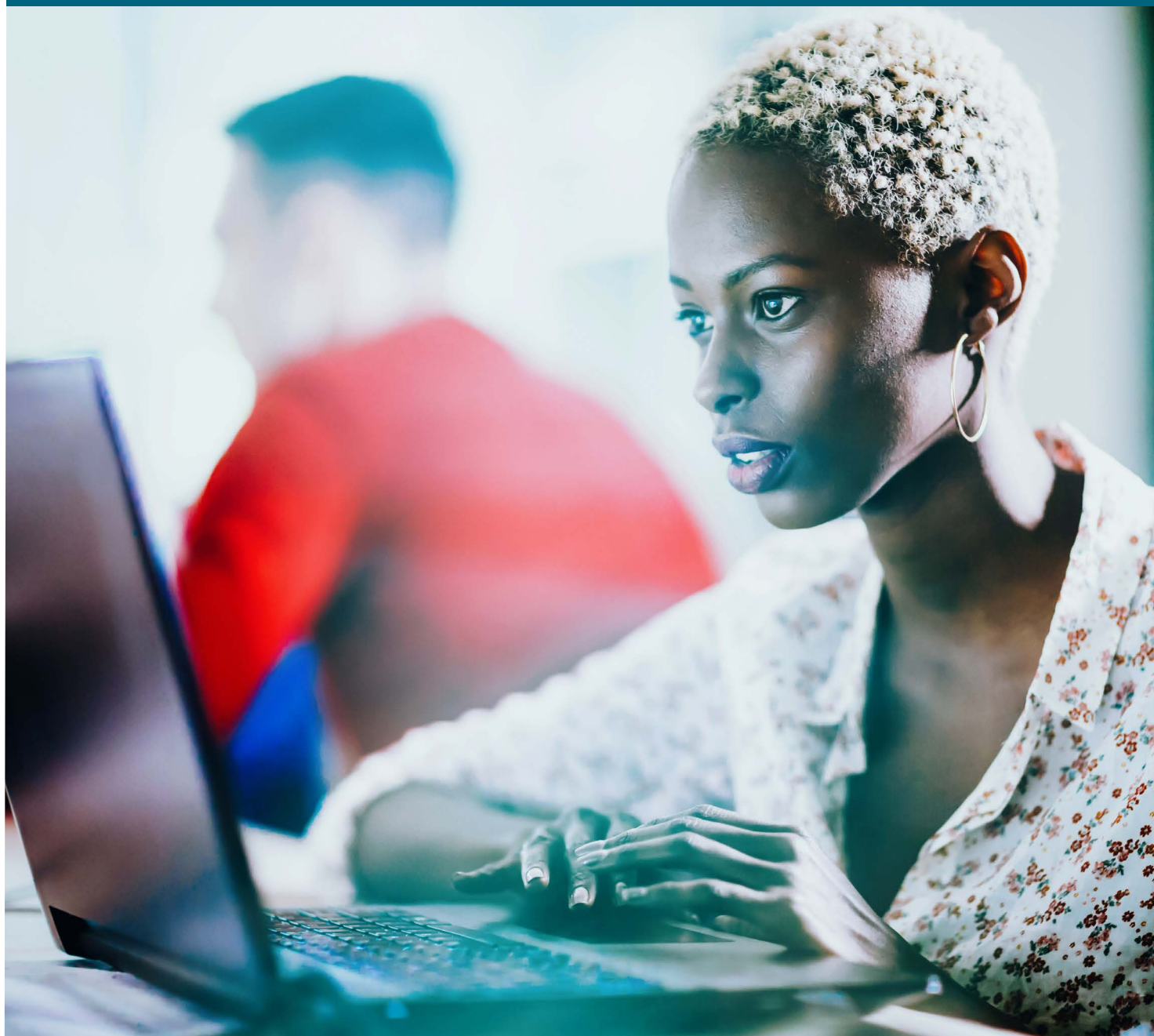


第4次産業革命における パワーゲーム

Jordan Morrow、Qlik、データリテラシー部門グローバル統括責任者



世界経済フォーラムで、議題のトップとしてグローバルリーダーから挙げられるのは、仕事に対する人工知能 (AI) の影響、「グローバルリゼーション 4.0」、そして気候変動の危機をどう解決するか、といったトピックでしょう。

しかし、今年のプログラムには、もう 1 つ追加すべきトピックがあります。それは、" 第 4 次産業革命における国家間の新しいパワーバランス " です。

産業遺産からの転換

現在繁栄している多くの国の経済的優位性は、一部においては、産業革命までさかのぼることができます。工業化により、西欧と米国では広範囲にわたって生産性、イノベーション、都市化、そして新しい経済学的思考が加速し、過去 1 世紀にわたる繁栄の基盤が築き上げられました。

しかし、第 4 次産業革命によって、この過去のパワーバランスが変わろうとしています。データ分析と適用の速度、範囲、システムに革新がもたらされ、AI、IoT、3D 印刷、量子コンピューティングが急速に普及している今、影響の大きな創造的破壊にすべての業界が直面しているのです。

力をめぐる新たな戦い

新産業世代を勝ち抜くのは、データスキルを備えるグループ、つまり、その専門知識が 21 世紀のゴールドラッシュになると考えられるデータアナリストやデータサイエンティストのみならず、すべての人が質問によってデータやコンピューターからインサイト引き出せる基本的スキルセットを備えている国、あるいは組織です。

確かに、WEF の Future of Jobs レポートは、今後数年間で、より専門的なデータ分析および技術的な役割に加え、テクノロジーによって拡張された業務が大幅に増加することを示しています。今後、e コマース、デジタルマーケティング、組織開発のスペシャリストなどは、データと自動化を利用して、創造的かつ分析的な思考と意思決定力を強化していくでしょう。

ところが、一般的なグループがデータを処理、分析、解釈し、それに基づいて行動するスキルは、この変化のペースに追いついていません。データリテラシーと呼ばれるこのスキルセットを備えることで、個人がデータ主導型インサイトを活用して、よりの確な意思決定を行えるようになります。

これからのデジタル経済を世界的にリードするのは、このようなスキルを上手く生み出せる都市、国、地域です。企業のデータリテラシーを高めた会社の企業価値は 3 ~ 5% 上がっています。Qlik の委託により Wharton 大学が実施した調査に参加した平均的な組織 (企業価値 107 億ドル) については、企業価値が 3 億 2,000 万ドルから 5 億 3,400 万ドル高くなっていることが、データリテラシー指標によって示されています。

しかし、現状では、データを読み、使い、分析し、データに基づいて議論する自分の能力に十分な自信を持っているグローバルな従業員は 4 分の 1 にも達していません。これにより従来のグローバルプレイヤーと新興国との競争の場がかなり均されます。

アジアは、このパワーシフトをうまく利用するうえでは特に良い位置につけているようです。自分のデータスキルに世界で最も高い信頼を置いているのはインドの意思決定者です (46%)。これは2番目の米国を大きくリードしています。米国ではデータに精通しているビジネスリーダーの33%にすぎません。さらに、インド、中国、シンガポールでは、データスキルの向上に多くの時間と労力を費やしたいと考えている従業員の割合が非常に高くなっています (それぞれ95%、93%、82%)。これは英国、フランスなどの従来のグローバルプレイヤーの意欲を大きく上回っています。英国とフランスでは、それぞれ65%、63%の回答者が、チャンスがあればデータスキルに投資するだろうと答えています。

グローバルな関連性の維持

グローバルリーダーにとっても新興国にとっても、第4次産業革命での成功への鍵は、データとテクノロジーを使って働き方を強化し、障壁を低くできるかどうかにかかっています。

第4次産業革命での成果を向上させるうえで考慮すべき3つのことを次に示します。

1. 個人のスキルを向上させる - 今の従業員と将来の従業員のデータスキルに投資することは、個人および企業の成功、そして広い観点から見た国の経済の成功には不可欠です。

しかし、WEFのFuture of Jobsレポートによると、現在のスキル向上への取り組みの多くは、すでに評価もスキルも高い従業員に焦点が当てられています。より多くの人をサポートするには、政府、教育機関、組織の関与と協力がさらに必要であることは明らかです。

たとえば、16～24歳の世代のうち、データリテラシーを備えているのはわずか21パーセントです。このことから、学生が実社会で働くために必要なスキルを、教育機関が育成できていないことがうかがえます。カリキュラムを作り直して、将来の従業員全員が基本的なデータスキルを確実に身に付けられるようにすることが、今後の労働環境で成功するには重要です。

2. ビジネスケースを理解して、データを有効活用する - 公的機関でも民間組織でも、第4次産業革命でデータを活用する機会をリーダーが把握することが重要です。そして、従業員がデータを使用できるように、必要な変更を加えていきます。過去10年間でデータが急増し、ほぼすべてのビジネスリーダーが、自社の現在の意思決定プロセスにおけるデータの重要性を認識していますが、困ったことに、過去5年間でデータの使用方法に大幅な変更を加えた企業はわずか8パーセントでした。

3. アクセス可能にする - 企業や最近力を増しているシチズンデベロッパーのデータスキルを高めても、関連するデータや、インサイトに基づいた意思決定を行うためのツールにアクセスできなければ、まったく意味がありません。カムデンロンドン自治区の地方自治体の取り組みは、データセット公開の良い例となっています。たとえば、さまざまなサービスで詐欺を特定して減らすために市民の指標を作成したり、地域のアプリケーション開発者とOpen Data Challengesワークショップを実施し、データセットを使ってアプリを開発したりすることで、ローカルサービスに関する消費者情報を利用しやすくしています。

今年のダボス会議の主要トピックがなんであれ、第4次産業革命によってもたらされるグローバルパワーの変化は、間違いなく国のリーダー、そして業界のリーダーの両方から大きな注目を浴びるはずですが、テクノロジーの進化と採用が急速に進み、業務プロセスの俊敏性が高まることで、経済世代の意味が明確になりました。これにより提供される新しい機会を今、待たずに取り入れ、追求していかなければなりません。